

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 62 2008年4月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

「里山の再生と生きものの道」

〈石神 良三〉

アズマネザサの繁茂する島の点在する雑木林

「後世に継承したい里山」の再生を目指すエコアツプ作戦も、月二回の活動により順調に進行している。現在取り組んでいるのは地権者（石山さん）のご協力を頂き、ヒノキ林とコナラを中心とする雑木林の手入れである。

ヒノキ林に隣接する雑木林の林床は、およそ10メートル巾のアズマネザサの密生した帯である。作業を進めるにあたり、アズマネザサの刈り取りが話題になった。それは、二十年つづくこの環境の中で生息してきた、生き物達のことであつた。

コジュケイ、ウグイス、キジなどにとつては、すみかであり繁殖の場でもある。まだ、タヌキの親子の通り道であることも確認されている。このように多くの生きものにとつてのササやぶであることに思いを馳せ、ササやぶの島を点在させることで、移動や繁殖が出来るように工夫をしてみた。

これからの里山の管理の視点として、単にきれいにするというのではなく、動植物の多様性をふまえた、豊かな里山づくりが望まれるだろう。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。



先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！



プロジェクト活動報告



アヤメ事業報告

坂弘毅

アヤメ園近況

例年になく寒い冬が終わり、やっと春めてきてきました。アヤメ園の作業は、寒くても暑くても管理の手を休めることができません。一月だけお休みして、二月からは作業を開始しました。二月は雑草も少なく、メインの作業は、園内の構造物の改修や池の補修、更には、圃場の崩れた畝の補修が主体となります。氷の張った池に入り、池のヘドロやスイレンの根の掘り起こしは大変な作業ですが必ず結果が出ますので、爽やかな疲れとなって苦になりません。

啓蟄を過ぎる頃から、小さな生きものたちを目にするようになりました。寒がっているのは人間だけで、自然界は目覚めの季節を迎えています。

アヤメ園のある場所は、牛久市庄兵衛新田町と云う長い名前ですが、これは歴史的に意味のある地名なのです。それは、八代將軍吉宗の時代にさかのぼります。吉宗は積極的な財政の建て直しと江戸の人口急増に対処するため次々と政策を打ち出しました。その中の農産物生産拡大策では、江戸を取り巻く周辺地域に新田開拓を指示しました。その中の一つが、牛久沼の新田開拓です。周辺五百町歩と言われる広大な新田を開拓すべく常陸國牛久村の豪農、桜井庄兵衛は立ち上がりました。享保十年

(1725) 牛久沼の干拓を勘定書に依頼しました。私財を投げ打っても足りない工事費用に莫大な借金をしてのスタートです。しばらくして上流域二十五ヶ村と下流域九ヶ村の水利権問題の勃発、更には水路を変更したことによる水害等で工事は困難を極めました。そしてとうとう金策が尽き庄兵衛は財政破綻を引き起こして、夢は挫折に終わります。その庄兵衛が干拓した新田の一部が、龍ヶ崎市、牛久市、つくば市の三市に庄兵衛新田町という名前で残され、牛久沼の歴史として語り継がれています。

このアヤメ園を含めた庄兵衛新田町は谷津と水辺のコンビネーションが他に類を見ないほど豊かな自然を残し、オオタカが舞い、絶滅危惧種の植物の群落や、アカガエル、メダカなども見られ、動植物の生態系が維持されています。アヤメ園は受託から四年目を迎えますが、里山の会の真心込めた管理によって、圃場の中にも絶滅危惧種の野草が次々と発芽するなど、自然環境は本来あった牛久の自然に戻りつつあります。



この美しい自然環境の保全を更に推し進め、オニバスやジュンサイの咲く水辺と、ヘイケボタルが飛び交う環境を取り戻したいと考えています。



巨木リサーチ事業報告
簡 晶子

平成十九年度の活動を振り返って

巨木リサーチ事業の登録メンバーは、現在二十五名です。活動の中心となる巨木・古木・希少木の調査は、今年度は市内の寺社にある樹木を対象としました。活動は第一日曜日と第三土曜日の月二回です。スタートの四月一日には、新メンバーを迎えて十九年度の活動打ち合わせを行いました。それに引き続き、現地調査十二回、研修見学三回、エコツアー一回、今年に入り、一月に内部報告会、三月には「牛久自然観察の森」で、三日間にわたる資料・展示報告会を実施しました。

結局、本年度は計二十五箇所の寺社、六十八本の樹木の調査・撮影を完了しました。調査活動に参加した延べ人数は百八十名に及びます。研修見学としては、五月・七月に森林総合研究所（つくば市）、八月に国立歴史民族博物館・くらしの植物苑（佐倉市）、そして六月には富士山一泊エコツアーが行われました。季節の折々には、親睦会も開催されました。

十九年度に新たに始まった活動としては、市内街路樹調査と「広報うしく」への記事掲載があげられます。メンバーの中から、新たに十五名で街路樹グループが結成され、八月の炎天下に調査がスタートしました。全十回の活動で、対象街路樹の樹種の特定・本数の確認等を終え、樹種名板取

り付けへ向けての一步を踏み出すことができました。また九月より「広報うしく」に『わが街の木』というコーナーが設けられ、その写真撮影と解説文作成を、街路樹グループのメンバーが担当しています。毎月一日版に、市内の街路樹が順次掲載されていきます。市民の皆さんの樹木への関心が、少しでも高まればうれしく思います。さて実際に調査に入る前には、



「街路樹調査」 渡辺 07.8.7

日版に、市内の街路樹が順次掲載されていきます。市民の皆さんの樹木への関心が、少しでも高まればうれしく思います。さて実際に調査に入る前には、

様々な準備作業が必要となります。私も総務の一員としてそれらに参加してきました。どの寺社のどの樹木を調査対象とするか、その選定作業は前年度の末から始まります。調査を前にご挨拶に伺うこともあります。さらに直前の下見によって、駐車場所や昼食場所、経路の確認をします。常時十数名での行動となりますので、移動・活動が円滑に進むよう、なるべく心を配りたいと思っています。（時として道をまちがえたりしますが…）

またこの会に参加して、市内の様々な寺社の存在を知りました。同じ場所でも、季

節の移ろいによってその印象は驚くほど変わります。夏、鬱蒼とした緑にヤブ蚊で悩まされた神社を、年の瀬になって再訪問すると、地元の人々によって掃き清められた参道は清々しく、落葉した木々からの木漏れ日が明るく感じられました。紅葉の美しい山寺、村の鎮守様というイメージの小さな神社も訪れました。普段、車で通り過ぎている道沿いから、ほんの少し脇へ入っただけで、全然知らなかった未知の世界へ迷い込んだようです。牛久が緑豊かな地であることを深く実感した一年でした。

来年度は調査対象を個人宅の樹木へと広げていきます。訪問先への配慮も、より一層大切となるでしょう。また新たな発見・出会いがあることを楽しみに、今後も活動を続けていきたいと思えます。



「昼食で一休み」 増田 07.11.24



牛久自然観察の森報告

齊藤 孝

財政援助団体等監査報告

去る二月二十日、牛久市監査委員による財政援助団体等（指定管理者）監査が行われました。

この監査は、地方自治法第199条第7項に基づくもので、市が公の施設の管理を委託しているものに対し、必要があると認めるとき、又は市長の要求があつたときに、当該財政援助等に係る出納その他の事務の執行が適正かつ効率的に行われているかどうかを検証するものです。

当日は、識見選出の早川広行監査委員と議選の板倉宏監査委員の2名、監査委員事務局から3名、緑化推進課からは山口課長と柳下副主査の2名、当法人からは坂代表理事、石神園長、齊藤チーフ、渡邊副チーフ、笠谷会計の5名が出席しました。

監査では、事前に監査委員に提出された書類に対する指摘事項（指定の経緯や事業費の算定、備品の管理等）について、主に担当課である緑化推進課の柳下副主査から回答が行われましたが、実際の運営に係る詳細は牛久自然観察の森職員が回答を行いました。

この監査の報告書は後日公開されることになっており、牛久市の監査委員事務局ホームページでも閲覧が可能となりますが、当日の監査項目の詳細や、当法人からの回答の詳細をお知りになりたい方は、事

務局担当（齊藤）までお問い合わせ下さい。当日の記録等をもとに、本監査の内容をご説明いたします。



結束町みどりの保全区エコアップ作戦

参加者募集のお知らせ
今月から活動時間が午後一時～三時三十分统一到一されます。

さあ、会員の力を結集して元気な森づくりを行いましょ！

【四月のエコアップ作戦は2回実施します】

十九日（土）・二十日（日）

いずれも午後1時～3時30分

集合場所・時間↓いずれもネイチャーセンター1階倉庫前・予約不要（雨天中止）

持ち物↓長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物（長袖、長ズボン）

※杉林に隣接する雑木林での作業となりますので、マスクやゴーグルが必要な方は持参して下さい。

※刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りませす。

問い合わせ先
会事務局（029-874-6600）

担当：齊藤



雑木林応援隊活動報告

雨宮 廣之

竹林の整備

二月の最終活動日は風が強く、観察の森もネイチャーセンターまでの入園が許可され、奥には入れない措置が執られました。コジユケイの林での林床整備を予定していた応援隊は、急遽ムジナの里での竹林整備に活動内容を切り替えました。

ご存知の通り、観察の森周辺の竹林も荒廃がすすみ、竹が密集している状態です。昔は、建築材として販売出来たそうですが、現在ではお金を払って整備してもらう状況です。

前回の公開炭焼きの参加者の中に、牛久市の竹林整備事業に協力していて、伐採した竹の処分方法の一つとして、炭焼きを勉強したいとの参加理由の方がおられました。どこでも竹林の荒廃には苦慮している様です。



ムジナの里
周辺の竹林も、倒しておけば葉が落ちた段階で、業者が引き取ってくれるケース（苗等の覆いに使う）、落とした枝は、竹箒の業者が



引き取ってくれるケース、建築会社が仕事の合間に竹材として伐採してくれるケース、いずれも無償での伐採となっておりますが、増えていく竹の浸食には、追いついていない様に思えます。

この日の活動は、ムジナ周辺での伐採後の竹を掃除がてら粉碎機に掛けてチップにし、それを森の炭屋周りにまいて、ぬかるみ対策にしようとしたものです。粉碎機は、以前日本財団の助成金で購入した物で、約三十万弱しました。

購入後の印象は、小さくて役に立つか疑問でしたが、予想をはるかに超える性能で、数時間で軽トラック一台半分の竹を粉碎出来ました。欲を言えば、もう一台ほしいと思っています。竹のチップをまいた炭屋周辺は、一段とキレイになって、満足しています。



里山自然観察隊活動報告

平塚 芳雄

三月八日（土）、里山自然観察隊プロジェクトが新年度（平成二十年度）の活動の柱として計画している「植物観察会」の観察候補地の下見を行い、雑木林探しの苦労の末、観察候補地2カ所をほぼ決定することが出来ました。

下見当日の参加者は9名。快晴で穏やかな日和の下、東岡見団地の西側に広がる山林、岡見城址、東下根と下根が丘の間の山林を車3台に分乗して巡り、雑木林探し、観察適地探しを行いました。東岡見団地西側の山林は以前は県や市から保全林としての指定を受け相当の保全管理がなされていた様子が窺えましたが、スギ・ヒノキ主体の山林である上、今はアズマネザサや竹が侵入、観察に適した雑木林は全く断念しました。次に訪れた岡見城址は樹木や竹が間伐され、小野川方向に面した斜面もきれいに整備されて土塁や堀の跡も窺え、散策できる状況になっていましたが、ここも観察に適した雑木林はありませんでした。最後に回った下根町では「牛久ジャンボゴルフ」北側や西側に観察に適したクヌギ・コナラ主体の雑木林が何ヶ所も広がっているのを確認することができました。

新年度の観察地としては小野川中流域の両岸にそれぞれ1カ所づつを考えおり、右岸の対象地は良く管理されている場所として自然観察の森の「コジユケイの林」とし、

左岸は余り人の手が入っていない場所として今回下見した「牛久ジャンボゴルフ」西側の雑木林とする方向で決めることになりました。

今回の調査活動で又、今回の下見に先立ち行った観察候補地探しでも実感したことです。管理放棄されている山林が多く、竹やアズマネザサが侵入、繁茂し、人が立ち入るのを困難にしている所が多いこと。山林全体は減少しているもスギ・ヒノキ林は比較的多く、クヌギ・コナラ主体の所謂雑木林が非常に少ないことでした。

「統計うしく（地目別面積）平成十八年度版」によると昭和五十六年から平成十八年の25年間に市内の山林面積の割合は33.5%から22.1%へ、10%以上減少しています。水源としての霞ヶ浦流域山林の現状を考えると、私達の生活用水の大部分が霞ヶ浦から供給されていることを思うと山林保全が切に望まれる所以です。尚、四月の活動は「植物ガイド」、テーマ



は「スミレの花を見る」(四月十二日(土))、城中町得月院前駐車場九時集合です。皆さんのお越しをお待ちしています。

連絡先
029-873-6426 (平塚)



南部の自然を守る会活動報告
阿部 幸浩

何度か報告させていただいていますが、遠山町南部地域において農地や周辺の自然環境を農業者だけでなく、地域を愛する関係者がみんなで守り、育てていく地域の共同活動がはじまりました。農業施設を管理している「水土里ネットうしく南部（牛久南部土地改良区）」から、この活動への参加を依頼され、関係者からなる活動組織「南部の自然を守る会」を昨年四月に立ち上げ、その構成員として本会も参加しています（代表：牛久南部土地改良区の塚本理事長さん）



「自然を守る会」の構成員である私たち「うしく里山の会」も、集落周りや田んぼの排水路に投棄されているゴミを拾い、その後、市民の方も歩かれるという農道沿いの草刈りを行いました。今回の作業を通じて、南部（遠山）を散

三月二日、成井集落のみならず、行っているクリン作戦が実施されました。

きました。南部の田んぼを眺めると常にだれかが歩いていきます。これから季節がよくなればもっとたくさんの方が、水田を渡る風を感じ、雑木林の緑の香りに癒されるの



でしよう。当日、散歩されていたあるご夫婦からも「こんなにゴミを捨てるなんてひどいね。ご苦労様。」と暖かい言葉をかけていただきました。これからも少しずつですが、地元の方々と共に魅力ある南部の自然環境を守り育てるため、努力していきたいと考えています。

※興味のある方は事務局までお問い合わせください。

今月の古木・希少木

No.12 アカガシ

ブナ科コナラ属の常緑高木で高さ20mに達します。コナラ属は日本に15種あり、常緑で分布の広いカシ類が7種、アカガシはその一つで宮城・新潟県九州に分布、本県では山地から低地まで広く自生。牛久市では柏田神社の参道沿いや旧家の屋敷に点々と古木が見られるだけで、シラカシほど多くありません。牛久シャトー西側の散策路にアラカシやシラカシと一緒に街路樹として植えられています。アカガシの葉は裏側が緑色または淡緑色で、写真のように縁にギザギザがほとんどありません。同じ仲間のシラカシは葉の裏側が灰緑色で、上半部の縁に写真のような浅いギザギザがあります。カシとはカタギのことで、「堅」と「木」を合わせて和字の「榿」をつくり、カシと読まれています。材は柱目に虎斑、板目に榿目模様があります。美しく、床柱や器具材などに賞用されています。名前は材が淡紅褐色で、赤みが強いことに由来。（渡辺泰）



アカガシ(左)とシラカシ(右)の葉



プロジェクト統廃合のお知らせ

「雑木林 畑隊」に関して

応援隊 雨宮

雑木林応援隊の前身、雑木林の会として活動していた頃より炭屋横の畑の管理を行っていました。里山の会が発足してから応援隊と畑隊とで活動内容が異なるとの理由で、二つに分けたプロジェクトとしていきましたが、来期四月より、畑隊を応援隊が合併する形で、一つのプロジェクトとして活動します。先祖帰り見たいな物ですが、来園者の方々に、炭小屋の風景と畑の風景とが一体となり、いわゆる里山を連想して頂ければ嬉しいと思っています。

一つのプロジェクトになる理由ですが、畑隊の隊長であった小野寺さんが逝去され、中心となるリーダーが不在となった事、参加されていた方達も、仕事の都合による引越、体調の不良等々により、以前のようなフル活動が難しくなった事が上げられます。応援隊は、月に一度は、炭屋で活動しており炭焼き期間中には、畑作業をする余裕も出るため、畑隊のメンバーだけでは難しくなった作業を、一緒にこなす事が出来ると考えての事です。

畑隊として、観察舎前の畑も一部を管理していましたが、同じ理由で、森にお返しすることにしました。

お気づきかも知れませんが、炭屋横の畑には、結束で昔から作られてきた作物を中心として育てています。今はやりのハーブ

等が無いのは、昔の里山の再現を念頭に置いていたためです。その中でも、古代トウモロコシやゼンマイなどの変わり種も育てています。

畑の横を通る際には、気軽に声を掛けて下さい。そして、出来れば貴方も参加して見ませんか。

さとやまがつきゅうを振り返って

プロジェクト責任者 小倉 裕巳

二〇〇〇年に牛久自然観察の森から「里山倶楽部をつくらう」ということでお誘いを受け、そこでさとやまがつきゅうが誕生しました。私は、それ以前から、観察の森や付近の里山で仲間や友人達と自然に触れる活動を行っていましたので、興味のあつた話だと思ひ参加したことを覚えております。

それ以来、開催回数は四十二回。身近に残る自然の大切さを参加者にどう感じ取ってもらえるのか試行し続けてきました。何と言つても、さとやまがつきゅうの特徴は、自然観察の森のみならず、牛久市遠山地区や龍ヶ崎市蛇沼公園をフィールドとした自然あふれる現場での活動でしょう。

我々の活動は、平成十九年度をもちましてうしく里山の会を離れましたが、できる範囲で身近に残る自然を後世に引き継げるよう活動を続けてまいります。今後も、暖かく私達の活動を見守って頂けたら幸いです。

最後に、いろいろとご理解ご協力ください

いたしました観察の森の職員並びに会の方々に深く感謝申し上げます。

運営委員会よりお知らせ

助成金を頂きました

茨城県緑化推進機構より5万円の助成金を頂きました。こちらの使途といたしましては、平成二十年度のパンフレットの修正、増刷の費用に充てる予定です。ご理解の程よろしくお願いいたします。

第4回通常総会のお知らせ

第4回通常総会を五月十八日(日)に予定しております。詳細については、5月号にてお送りいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

広報委員会よりお知らせ

■次号5月号の印刷発行は四月二十三日(水)です。

午後一時からネイチャーセンターで行います。お手伝いいただける方は一時までにお越しください。よろしくお願いいたします。

4月の里山カレンダー

※活動美は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
		1 ○雑木林畑隊 9:30畑	2	3 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	4	5
6 ○巨木リサーチ(受) 9:30市中央生涯 学習センター	7 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	8 ○雑木林畑隊 9:30畑	9	10 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	11	12 ○里山自然観察隊 9:00得月院 (会報等原稿×切)
13 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	14 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	15 ○雑木林畑隊 9:30畑	16	17 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	18	19 ○じゃがいも 9:00梅林畑 ○エコアップ作戦 13:00NC
20 ○運営委員会9:00NC ○理事会11:00NC ○広報11:00NC ○エコアップ作戦 13:00NC	21 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	22 ○雑木林畑隊 9:30畑	23 ○会報発送 13:00NC	24 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	25	26 ○巨木リサーチ(受) 8:30市役所玄関
27 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	28 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	29 (昭和の日)	30 (休園日)			

森：観察の森、NC：観察の森ネイチャーセンター P：駐車場、畑：観察の森駐車場奥の畑

コジュケイ：観察の森内コジュケイの林、観察舎畑：観察の森内観察舎前の畑、ムジナ：結束町の雑木林（通称ムジナの里）

市：牛久市役所、アヤマ園：三日月橋観光アヤマ園、(受)：受託事業、(休園日)：観察の森休園日

編集後記

桜の咲く季節になりましたね。日本の神話には、木花咲耶姫命（コノハナサクヤヒメノミコト）という女神様が登場します。普段は富士山のとつぺん（浅間神社）にいらつしやつて、毎年四月頃になると山から下りてきて日本中に桜の花を咲かせ、春の訪れを告げる女神様と言われています。女神様も一仕事終わると、また富士山にお帰りになるのでしようか。

遠山地区にも俗称？『遠山桜』という桜（何かの時代劇を連想しますね）がありますが、きつと立派に花を咲かせることでしょうか。桜を美しいと感じるのは、開花してからほんの数日で散つてしまふ儚さがあるからでしょうか。そしてまた来年。

桜は、昔からいろいろな詩歌に詠まれてきました。私たちの自然観にフィットするからでしょうかね。何年か前に流行つた歌で、私の好きな歌があります。

「友達よ、さようなら。でもいつかきつとまた桜咲く頃、この場所で再会しようじゃないか」

そんな意味の歌詞のある歌がありました。私の書く編集後記も今回が最後となります。みなさま、いつか桜咲く頃、きつとまたお会いしましょう！

(記 安村和真)